

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児理解演習 I Understanding Children with Disabilities I		2年	集中（後期）	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
障害児保育 I・II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹利夫	講義棟2階	月・火・水・木の8時～18時		授業中に指示します
授業の概要				
先ず障害の意味を学び直す。次に、障害がある子の気持ちを、文字資料やVTRや障害の疑似体験を通して具体的に理解する。また、手話や点字、車椅子介助や盲人介助の仕方などを学ぶ。				
授業の目標				
①子どもの行動の見方を知り、気持ちを理解する視点を身につけるようにする。 ②子ども一人ひとりの気持ちに合わせて保育することができるようにする。 ③各種障害の疑似体験を通して、障害状況を理解することができるようにする。 ④各種障害の介助体験を通して、適切な介助をすることができるようにする。 ⑤手話や点字が使えるようにする。				
授業の方法				
文字資料やVTR映像を使って様々な障害の事例（ケース）を紹介し、具体的に進める。毎回、小レポートを提出。各種障害の疑似体験・介助体験を行う。更に、実際に手話や点字を使う。				
学習の成果（学習成果）				
①人の行動を通して、その意味や気持ちを理解する視点を持つことができる。 ②子ども一人ひとりの気持ちを理解した保育をすることができる。 ③様々な障害がある子に対して、気持ちを理解した支援をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。(授業の内容・進め方・評価の方法)。障害の意味。偏見・差別。			
第2回目	ダウン症児の気持ちの理解と対応。			
第3回目	自閉症児の行動の意味と対応。			
第4回目	手話と指文字。			
第5回目	乳児院・児童養護施設の子どもの気持ちの理解と対応。			
第6回目	肢体不自由児の気持ちの理解の仕方を学ぶ。			

第7回目	障害児施設の子どもの気持ちの理解と対応。
第8回目	点字を読む。
第9回目	視覚障害の疑似体験と介助体験。（歩行と手引き）
第10回目	点字を打つ。
第11回目	重症心身障害児施設の障害者の気持ちの理解と対応。
第12回目	障害者施設の障害者の気持ちの理解と対応。
第13回目	見えない・聞こえない障害の疑似体験とコミュニケーション。
第14回目	車椅子体験と介助体験。
第15回目	施設実習に向けて・まとめ。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。障害の疑似体験や介助体験に真剣に取り組む。
レポート	70%	授業の中でレポートを書く。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。1回5点満点で計14回。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

適宜資料を配布する。

履修上の留意点・ルール

私語禁止。飲食禁止。